

45. ビデオデフェコグラフィーの経験

朝比奈完

病院紹介 司会 鈴木 忠

46. 当院における人間ドックの現況

曾我幸弘・泰川恵吾・藤井昭芳・木村恒人（立川中央病院）

47. 渡辺胃腸科外科病院の現況

斉藤 登・渡辺金隆（渡辺胃腸科外科病院）

48. 森下胃腸病院の現況

森下 薫・山田則道・野村幸範（森下胃腸病院）

49. 滝口外科医院の現況

滝口 進（滝口外科医院）

50. 藤岡診療所における紹介症例の研究

天野一夫（藤岡診療所）

研究班報告 司会 浜野恭一

1. 栄 養

城谷典保

2. 上部消化管

大地哲郎

3. 下部消化管

亀岡信悟

4. 乳 腺

木村恒人

5. 小児外科

馬淵原吾

6. 救命・救急

鈴木 忠

閉会の辞 浜野恭一

(プログラム委員会 浜野恭一・木村恒人・山本和子・加藤孝男・神尾孝子)

1. 腹部打撲を契機とした小腸憩室穿孔の1例

(釧路中央病院)

稲田 直行・瀬下 明良・永田 仁・
山中 茂・串崎 俊方

今回我々は、腹部打撲により発症したと思われる小腸憩室穿孔の1例を経験したので報告する。症例は93歳女性で、転倒後の腹痛を主訴に来院した。来院時、下腹部に圧痛あり、筋性防御は弱い。Blumberg 徴候は著明であった。汎発性腹膜炎と診断し、緊急手術を施行した。開腹すると、上部空腸に炎症性癒着、腸間膜の肥厚、膿苔の付着を認め、また、腸間膜の空腸付着側近傍には気泡が散在していた。腸間膜損傷を伴う小腸穿孔と診断し、小腸切除を施行した。切除標本では、炎症の最も強い腸間膜側に10個の大豆大の憩室があり、病理所見では、粘膜側に炎症所見を伴わない憩室の穿孔を認め、腸管内圧の上昇が原因と考えられた。病歴から腹部打撲が契機になったものと推定された。

2. 特発性大腸穿孔の3治療例

(伊勢崎佐波医師会病院外科)

河 一京・安部 龍一・
宮崎 要・宮川 隆平

(国立がんセンター研究所病理部) 中西 幸浩

今回、我々は比較的稀な疾患である特発性大腸穿孔を3例経験した。症例1：79歳女性、トイレで力み突然腹痛出現し、当院受診。症例2：85歳男性、排便後腹痛出現、症状軽快せぬため当院受診。症例3：79歳

男性、夕食後散歩中突然腹痛出現したため当院受診。いずれも汎発性腹膜炎の診断にて緊急手術となった。症例1は大量の糞便を腹腔内に認めたため Hartmann 手術を施行し、症例2・3は結腸間膜がバリアとなり、腹腔内に糞便の流出を認めなかったため S 状結腸を切除し一期的に吻合した。3例とも、切除標本を得ることができ病理組織学的に特発性大腸穿孔と診断した。いずれも経過良好にて退院となった。本疾患はその診断に際して除外診断的要素が強いが、本稿では、その診断は病理組織学的検討が重要であると強調した。

3. 放射線腸炎による小腸穿孔の1例

(西新井病院外科)

宮下 美奈・康 錫柱・金 英宇

婦人科領域における放射線治療後に、大腸や小腸に放射線腸炎が生ずることは稀ではない。今回我々は、子宮癌放射線療法後の晩期障害が原因と考えられる興味ある臨床病理学的所見を呈した小腸穿孔の1例を経験したので報告する。

症例は、77歳、女性。下腹部痛を主訴として平成2年2月6日内科にて入院した。25年前に子宮癌放射線治療の既往あり、保存的療法で経過観察するも軽快せず、当科へ転科し汎発性腹膜炎の診断で開腹したところ、回盲部から約70cm 口側小腸に穿孔が認められ、その他の部分も放射線の影響とみられる炎症性癒着が高度であった。